

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人
第5学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

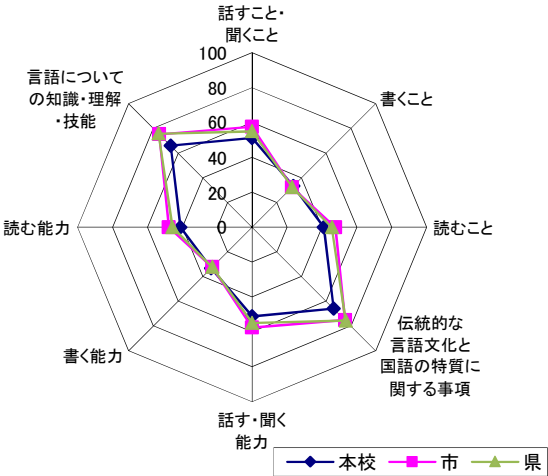
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	51.1	57.5	54.9
	書くこと	33.3	32.3	32.3
	読むこと	41.1	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.0	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	51.1	57.5	54.9
	書く能力	33.3	32.3	32.3
	読む能力	41.1	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	66.0	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

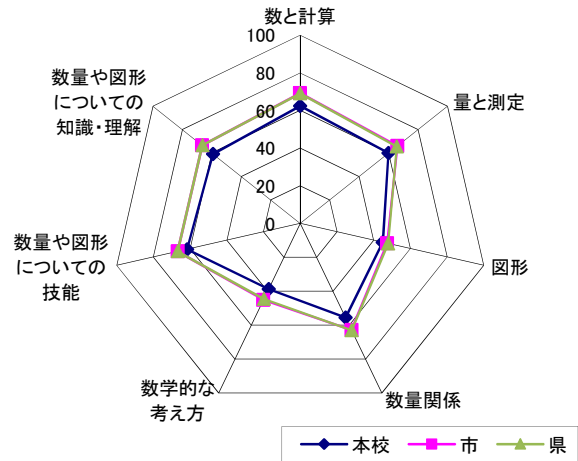
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」ことについての設問の正答率は73.3%で、県の平均を7.6ポイント上回っている。 ●領域の正答率は、県の平均を3.8ポイント下回っている。 ●「話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる」ことについての設問の正答率は13.3%で、市の平均を13.7ポイント下回っている。	・話の中心を的確に把握するためには、提案者以外の児童一人一人が、提案者の考えの共通点や相違点を整理しながら聞くことが大切である。内容の観点に基づき整理して、話の要点をつかんで聞く機会を多く設定した授業を行う。また、他教科でも提案された内容について質問したり、自分で感じたことを言ったりすることができるよう、小グループでの話し合い活動を意図的・計画的に設定して、進んで参加することができるようにしていく。
書くこと	○領域の正答率は、県・市の平均と同程度である。 ○「文章構成を意識し、内容を工夫して報告レポートを書く」ことについての設問の正答率は、60.0%で、県の平均を9.0ポイント上回っている。 ●「メモや友達の意見を基に、報告レポートのまとめを書く」ことについての設問の正答率は市の平均を6.8ポイント下回っている。	・設定した相手や目的に応じて、話の内容を的確にとらえ、それを基に文章を書く力をつける必要がある。普段の日記指導の中で、その日のどんな出来事を中心に書きたいのか意識させたり、リレー作文などで気軽に書く機会を多く設けたりして、書くことの力をつける。
読むこと	○「叙述や会話文を基に、登場人物の性格を捉える」ことについての設問の正答率は、県の平均を6.5ポイント上回っている。 ●領域の正答率は、県の平均を4.6ポイント下回っている。 ●「文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う」ことについての設問の正答率は26.7%と、市の平均を20.8ポイント下回っている。	・説明文を読む際には、中心となる語や文に注目して読んだり、小見出しを付けて内容を整理したりしながら読ませるような指導をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文の主語になる語句、述語になる語句の類別に関する設問の正答率は、市の平均を6.8ポイント上回っている。 ●領域の正答率は、県の平均を9.8ポイント下回っている。 ●漢字の読みについての設問の正答率が低い。	・漢字練習の宿題で、読み仮名を書き忘れることが多いので、きちんと読み仮名も書きながら練習するように指導する。 ・普段からたくさん読書をしているので、読書の中で出会った読み方の分からない漢字を読み飛ばさずに、教師や友達に聞いたり、漢字辞典で調べたりして、少しずつ読める漢字を増やしていくように声掛けをする。

宇都宮市立上河内小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.4	69.2	69.1
	量と測定	60.0	66.1	65.6
	図形	45.0	47.4	48.0
	数量関係	55.6	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	38.7	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	61.7	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	59.2	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

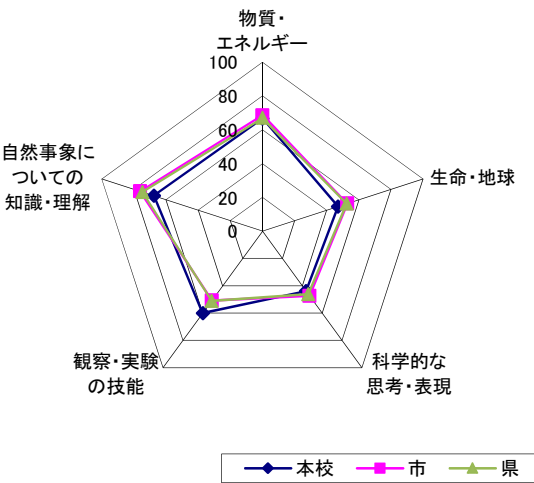
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○4位数－4位数の計算をする設問の正答率は県・市の平均と同程度である。 ●領域の正答率は、県の平均を6.7ポイント下回っている。 ●2位数÷1位数の計算をする設問の正答率は73.3%で、県・市の平均を大きく下回っている。	・掛け算九九や足し算・引き算の筆算の復習や、掛け算や割り算の計算の復習を普段の宿題から取り入れて、継続して学習できるようにする。
量と測定	○「はかりに示された重さを読み取る」設問の正答率は、県の平均と同程度である。 ●領域の正答率は、県の平均を5.6ポイント下回っている。 ●「分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する」ことを問う設問の正答率は、60.0%で県の平均より19.4ポイント低く、大きく下回っている。	・普段の生活の中で、時と分を意識する機会が多いが、分を秒に直して使う機会は多くないので、意図的に分を秒に直して考える問題に取り組めるようにする。
図形	○「1辺5cmの正三角形を1cm間隔ドット上に作図する」設問の正答率は、県・市の平均と同程度である。 ●領域の正答率は、県の平均を3.0ポイント下回っている。 ●「箱に入った同じ大きさの6個のボールから半径を求める」設問の正答率は46.7%で県の平均より10.4ポイント下回っている。	・球の二等分した切り口が最大になるものが、その球の半径や直径になること、半径は直径の半分であることについては、再度よく押さえない。その際、表面的な理解にならないよう、ボールを直方体の箱に入れるなど、具体物を使って作業的な活動をするを通して、日常体験から学ぶことができる学習活動を取り入れていく。
数量関係	○式が表している意味を読み取り、適した答えを選ぶ」設問の正答率は、46.7%で市の平均を5.2ポイント上回っている。 ●領域の正答率は、県の平均を7.5ポイント下回っている。 ●「□を用いた情報の式に適した場面を選ぶ」設問の正答率は、40.0%で、市の平均を14.5ポイント下回っている。	・情報の式の意味について理解し、式から具体的な場面を考えることに課題がある。日常の具体的な場面に、数量の関係を式に表す活動を多く取り入れ、深い理解をさせていく。また、個人差が大いにあるので、習熟度別学習に特に力を入れる。

宇都宮市立上河内小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.7	68.6	66.9
	生命・地球	47.1	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	43.9	47.4	46.2
	観察・実験の技能	60.0	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	67.6	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の正答率は、県・市の平均と同程度である。 ○「物は形が変わっても重さは変わらないことがわかる」ことについての設問と、「ゴムののびや風の強さと車が走る距離の関係がわかる」ことについての設問の正答率は100%である。 ○「回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方がわかる」ことについての設問の正答率は、県の平均を41.6ポイント上回っている。 ●「物は体積が同じでも、種類で重さが違うことがわかる」ことについての設問の正答率は、市の平均を22.7ポイント下回っている。 ●「反射させた光を重ねたときの明るさの違いがわかる」ことについての設問の正答率は、市の平均を19.2ポイント下回っている。	・木や金属、粘土などでできた同じ体積のものの重さを、実際にてんびんにのせたり、反射させた光を重ねて明るさを調べたりして、体験的に学ぶという活動を再度行い、知識の定着を図る。
生命・地球	○「身近な自然の観察」に関する設問の正答率は、おおむね県・市の平均を大きく上回っている。「昆虫の体の色とすみかについての関係について考察すること」、「方位磁針の適切な操作方法が分かる」ことなど、基礎的な事項を特によく理解している。しかし、記述式の問題になると、正答率は低めである。 ●領域の正答率は、県・市の平均を5.3ポイント下回っている。 ●「昆虫と植物」に関する設問の正答率は、「昆虫の育ち方には一定の順序があることが分かる」ことについての設問では、市の平均を20.4ポイント下回り、「植物の生長する順序が分かる」ことについての設問では、市の平均を24.5ポイント下回る。	・観察の結果から考察する場面において、ペアやグループで話し合い、自分たちの言葉でまとめるなど、言語活動の充実を図る必要がある。また、その際には、授業で学んだ科学的な言葉や概念を用いて、自分の考えを表現する活動を、授業の中で意図的に取り入れていく。
		・観察や実験から考察する場面において、ペアやグループで話し合い、自分たちの言葉でまとめるなど、言語活動の充実を図る必要がある。自分の考えを表現する活動を意図的に取り入れていく。

宇都宮市立上河内小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●「自分にはよいところがある」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、県の平均を12.8ポイント、市の平均を14.8ポイント下回っており、自己有用感が低いことが分かった。授業中や学校生活の中で、よい行いや素晴らしい考えを称賛したり、友だちのよいところを見つけて褒め合う機会を設け、自己有用感を高めていきたい。

○「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、県・市の平均を上回っており、自らの力で解決しようという意欲があることが分かる。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、県・市の平均を上回っている。「クラスは発言しやすい雰囲気である」、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という質問に肯定的に回答している児童の割合も県・市の平均を上回っており、学級の中で、友だちの意見をよく聞いたり、認め合ったりするあたたかい雰囲気ができていることがわかる。

●「家でテストで間違えた問題について勉強している」という質問に肯定的に回答した児童の割合は、県の平均を26.3ポイント下回っている。テストを受けるだけでなく、返却された後の、復習としての活用法など、自主学習の一部として紹介誌、児童に浸透するようにしていきたい。

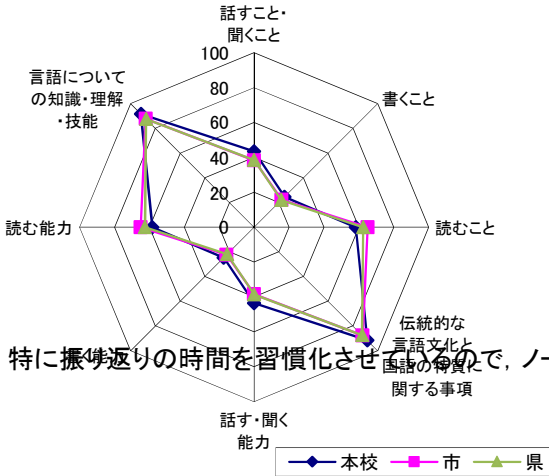
●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」という質問に肯定的に回答した児童の割合は、県の平均を22.0ポイント下回っている。辞書を引く機会を普段の授業でも意図的に設け、語彙を増やし、読むことができる漢字を増やすことで、国語の学習や言語活動に役立てることができるように指導していく。

○「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は、93.3%で、県の平均を14.4ポイント上回っている。授業の中で、常に目標を意識して学習し、まとめにつなげるという授業の流れが定着し、毎時間、目標をもって学習することができている。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	43.5	38.3	38.5
	書くこと	24.6	22.3	21.9
	読むこと	58.3	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	91.7	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	43.5	38.3	38.5
	書く能力	24.6	22.3	21.9
	読む能力	58.3	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	91.7	87.8	87.5



各自のノートにおいても、特に振り返りの時間を習慣化させているので、ノート

自主

★指導の工夫と改善

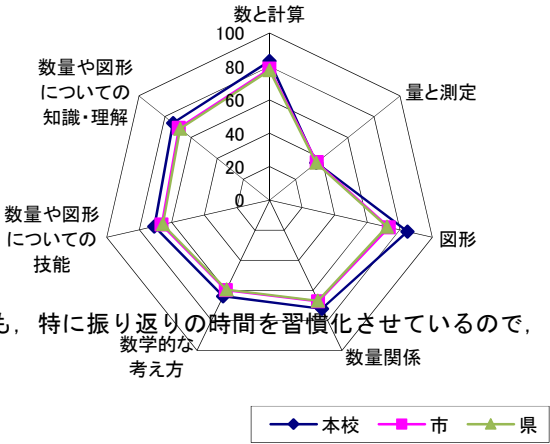
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の正答率は、県・市の平均を上回る。 ○「考えの共通点や相違点を整理しながら聞く」ことについての設問の正答率は、69.6%で県の平均を10.2ポイント上回っている。 ●「考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す」ことについての設問の正答率は、県の平均を2.4ポイント下回っている。	・少人数の話し合い活動から全体の話し合い活動につながるよう指導していく。その際、相手や目的などの具体的な場を一層強く意識させるようにして、司会など役割を与え、全員が聞いたことに対して感想を述べるようにするなど、積極的な参加姿勢をもたせる。質問するなど話す活動、聞いたことを自分の考えとともにノートにメモする活動を多く取り入れ、全体の話し合い活動ができるようにしていく。そうすることで、自分の考えの根拠や具体的な事例などを挙げながら、「筋道を立てて、内容を明確にしながら話せる力」を徐々に身に付けさせていきたい。
書くこと	○領域の正答率は、県の平均を2.7ポイント上回る。 ●「メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れる」設問の正答率0%であり、県平均の2.9ポイントを大きく下回る。	・複数の資料から目的となる内容を見つけ、条件に合うように記述することに課題がある。今後、並行読書したものもののリーフレットづくりを書く機会を多く設けさせ、読む相手に応じて、書く目的や意図に応じた文章構成や表現になっているかどうかについて助言し合う場を設定していきたい。
読むこと	●説明文の内容理解は、県平均を上回る。しかし、物語文で「文章の要点や細かい点に注意して読み、言葉を引用する」設問の正答率が34.8%で県・市の平均を大きく下回っている。	・物語文では、登場人物の気持ちの移り変わりや相関関係、また、暗示的に表現されているものも含め、叙述から理由を挙げて登場人物の心情を想像させる。そのために絵図に整理して読む活動を意図的にに行い、叙述を丁寧に正確に読む力を身に付けるよう指導を工夫していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の正答率は、県の平均を5.2ポイント上回る。 ○「漢字の書き」、「接続語の役割」や「漢字辞典の使い方」に関する設問の正答率が高い。 ●「漢字の読み」に関する設問の正答率が県・市の平均を下回る。	・授業や家庭学習で、言葉を正確に音読するように努めさせたい。漢字の練習では、分からない読み方は進んで辞書を使って調べ、必ず振り仮名を漢字の横に正確に書き、繰り返し音読することを勧めていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	83.3	78.6	77.7
	量と測定	35.9	36.3	35.7
	図形	84.8	73.3	72.1
	数量関係	72.3	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	63.9	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	70.7	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	73.9	69.4	68.5



各自のノートにおいても、特に振り返りの時間を習慣化させているので、ノ

自主

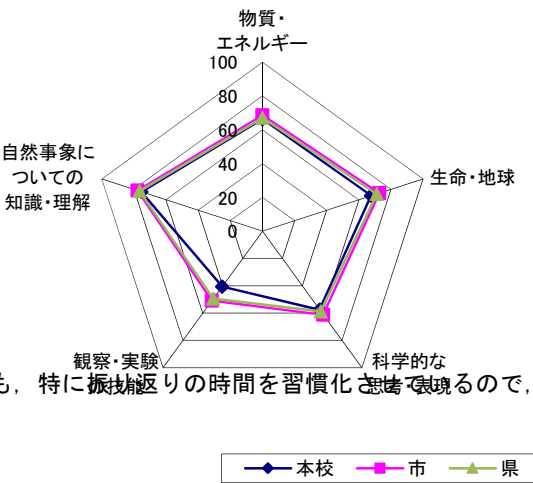
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の正答率は、県・市の平均を上回る。 ●わり算の内容の正答率60.9%が県の平均を10.7ポイント下回っている。 ●「小数と整数の中から一番大きい数を選ぶ」設問では、小数部分があると数が小さくなるという誤った見方もあった。	・わり算の筆算の練習、また、あまりのあるわり算や小数のわり算の練習などを、授業や宿題の中で普段から取り入れていき、継続して学習できるようにする。 ・整数、小数の学習について指導する際、ある位の単位に注目してそのいくつかとみる見方を養うようにしたり、数直線を活用したり、小数を含む数の大小関係を理解できるように丁寧に指導していきたい。
量と測定	○領域の正答率は、県・市の平均と同程度である。 ●「長方形を組み合わせた複合図形の面積を求める方法を説明する」設問の正答率は、17.4%で県の平均より15.6ポイント低い。	・面積の求め方の復習を行うとともに、その求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図などを用いたりして説明する活動を授業に取り入れていきたい。その際、取り上げた方法について、「共通点は何か」、「辺の長さを変えても使える方法か」などを考え、説明させることでより深い理解を促せるようにしたい。また、他の算数的な活動の中でも、筋道を立てて説明しようとする態度を育む機会を増やしていきたい。
図形	○領域の正答率は、県の平均より11.5ポイント上回っている。	・作図をするためには、描きたい図形の特徴をよく理解した上で必要に応じてコンパスや定規を適切に使う能力が必要となる。基本的な道具の使い方を再度確認するとともに、宿題等で作図の習熟を数多く図りたい。
数量関係	○領域の正答率は、県の平均より5.4ポイント上回る。 ●「買い物の場面で、1つの式に表した考え方を説明する」設問の正答率は、39.1%と県の平均を4.3ポイント下回る。	・考え方を説明する問題では、具体物、数直線、図などを相互に関連付ける学習活動を通して、式から具体的な場面の意味を読み取ることや、式を用いて自分の考えを説明すること、式で処理したり、考えを深めたりすることなど、指導を工夫していく。多様な方法を取り上げながら、自分の考えた式を図や数直線を用いて説明する活動や、友達の式の意味を考える活動などを繰り返し行い、式の意味を読み取る力を伸ばしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.3	68.6	67.0
	生命・地球	67.6	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	57.6	61.2	58.8
	観察・実験の技能	40.6	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	75.4	77.7	76.6



各自のノートにおいても、特に振り返りの時間を習慣化させることで、ノー

自主

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「金属は熱した部分から順に温まるのが分かる」設問の正答率は、100%であり、県の正答率を上回っている。 ●領域の正答率では、県・市の平均を下回っている。 ●「閉じ込めた空気を圧す際の体積と手応えの変化が分かる」、「へこんだピンポン玉が元の形にもどる理由が分かる」、「結果から金属の棒の温まり方について説明する」設問では、8～9ポイント県の平均を下回り、「乾電池2個を直列につないだときの回路図が分かる」の設問では、23.7ポイント県の平均を大きく下回っている。	・「金属、水、空気と温度」については、4年で学習する「ものの温まり方」と関連している。ものは熱した部分より温まることは理解している児童は非常に多い。しかし、「体積」が大きくなることについての理解が十分ではない。これらを関連付けて復習を行いたい。 ・「乾電池のつなぎ方の回路図」に関しても、明かりがつくつなぎ方を確認し、それらの理解のもと回路図を書くようにさせたい。 ・今後は、体験活動を多く取り入れて、予想について筋道を立てて記述したり、観察・実験の結果から分かったことの考察を書かせたりすることを大切にしたい。それらをもとに、ペアやグループで説明したり、話し合ったりする場を設定していきたい。また、伝えあった後、自分の考察を振り返ったり、ペアやグループで出された改善案について観察・実験を行ったりするように指導を工夫していきたい。
生命・地球	●領域の正答率では、県・市の平均を下回っている。 ●「冬の桜の様子がわかる」「太陽の動きから地面に立てた棒の動き方が分かる」「方位磁針の適切な操作方法がわかる」の設問に置いて、正答率が低く、県や市の平均よりも10～18ポイント低い。いずれも3年生までの学習内容である。また、「月の動きが分かる」の設問においても、県の平均を7.6ポイント下回った。基本的な観察技能と、観察・実験用具の利用についての課題が見られる。	・動植物の1年間の様子や月の動きや形についての学習では、3、4学年で行った学習と関連付けて理解事項を確認したい。また、児童一人ひとりが自然に興味をもったり、方位磁針や星座早見の操作ができたりするよう、動植物の観察をまめに行ったり、用具を繰り返し操作したりする機会を多くもちたい。その中で、学ぶ楽しさや有用性を実感できることも大切にしたい。さらに、日頃から動植物、月や星などの観察をするように声をかけ、興味をもたせていくことも大切にする。 ・学習のまとめでは学習したことを自分の言葉でまとめる活動を取り入れることで、知識の確実な定着を図っていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習では、「学校の宿題は、自分のためになっている」、「学習して身に付けたことは、将来に仕事や生活の中で役立つと思う」「算数は将来のために必要だと思う」の設問への回答の肯定割合は、100パーセントである。また、「勉強していても楽しい、楽しいと思うことがある」というような設問や、学習の理解に関する設問は、県平均を超える教科がほとんどである。学習への必要性や興味関心は高いと考えられる。

●家庭学習では、「予習」、「復習」、「テストで間違えた問題について勉強している」という質問に肯定的に解答した児童の割合は、県の平均を大きく下回っている。学校での学習を活かすためには、予習・復習の大切さを繰り返し話したり、テスト後のテストの活用法などを自主学習の方法と合わせたりして指導していきたい。自ら計画を立てて学習したり、与えられた課題だけでなく、進んで学習に取り組んでいく習慣をつくっていく必要がある。授業で学んだことのまとめの仕方なども、自主学習の見本を示して継続的な指導を行いたい。

○学校生活では、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」「人と話すことは楽しい」回答の肯定割合は、100パーセントである。意欲をもち、自分の役割を自覚して生活していることが分かった。

●「学校のきまりを守っている」設問では、肯定的な回答の県の平均より23.7ポイント低い。自分たちが安心して学校生活を送るためにきまりがあることをていねいに話し、みんなできまりを守ることの大切さについて事あるごとに伝えていきたい。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」との設問に関して、肯定的な回答割合は県平均より15.5ポイント低い。「相手の話を聞くことが、話す力を高める」ことを伝えながら、児童同士の話し合いの場を数多く設定していきたい。聞くための相手意識についても触れ、友達と話し合う必要性や話し合いのルールを身に付けさせていきたい。

○自分のことに関しては、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」という設問に、95.7%の児童が肯定的な回答をしている。粘り強く物事に接し、やり遂げる達成感を一人ひとりがもっていることから、自らの力で最後まで取り組める前向きな姿勢を認め、今後のクラス経営の中に「最後までやり通すこと」を目標として、行事等の様々な場面で児童を活かして活躍させていきたい。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」、「自分は勉強がよくできる方だと思う」、「自分には、よいところがある」「自分はクラスの人の役に立っている」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ、56.5%、39.1%、56.5%と34.8%であり、自己有能感が低いことが分かった。クラスの中での互いの良いところを認めたり、クラスみんなで遊ぶなど、互いについてよく理解しあえる場を設定していくような工夫をしていきたい。自分に自信をつけさせていきたい。

○家族・家庭とのことでは、「自分は家族の大切な一員だと思う」と肯定的な回答を100%の児童がしている。また、生活習慣に関する設問では、県平均を大きく上回る。家庭が安心できる場所で、保護者と良好な関係であり、健康的な生活を送っていることが分かる。

●「家の人と学校の出来事について話している」、「家の人と学習について話をしている」の設問への肯定的な回答割合が、県平均を大きく下回る。懇談会や学級通信等を通して、家庭へ現在の状況を伝え、適宜児童とのかかわりを日常的なものにしていただけるよう協力を依頼していきたい。

宇都宮市立上河内西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着化	1年生から6年生まで、全校体制で全学年で国語・算数を中心に、朝学習（10分）を1週1回程度設け、担任以外の職員も1名協力して、採点・指導を行っている。	今回、4層分析で個人差は全教科において見られた。今後とも、下学年のつまずきが上の学年の学習に影響しないよう、今後も継続したい。理科においても個人差が出ているので、基礎学習の復習を適宜取り入れる必要がある。
授業におけるまとめ・振り返りの工夫	板書するとき、課題を赤線で囲み、分かったことなどのまとめを青で囲むなどのきまりを全校で進めている。児童にも、同じようにノートに書くよう習慣化を進めてきた。	各自のノートにおいても、特に振り返りの時間を習慣化させているので、ノートへの目標とまとめを書いているかについては、県・市の平均を上回っている。しかし、今後は自分の考えを大切な言葉をつなげてまとめるなど、質的な向上を図っていききたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家でテストで間違えた問題について勉強している。」「家で学校の授業の復習をしている。」「家で学校の授業の予習をしている。」がいずれも、肯定割合がほぼ50%未満である。自主学習の内容の充実と習慣化に課題がある。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	自主学習の内容について、担任間でもう一度話し合う機会をもつ必要がある。また、テストの復習や授業の予習など進めている児童を学級または学校で称賛するような機会を考える。また、強化週間を作ることも必要である。 懇談会等で、保護者への協力依頼も続けたい。